



展覧会の準備に参画した調査委員会のメンバーたち



小豆島石丁場調査概報

小豆島石丁場調査委員会

編集 小豆島石丁場調査団
発行日 二〇二四年三月三十一日

No.3



2024.3.16 sat - 5.12 sun

今期も早稲奉念園展 土佐遺産展「石をよこば 瀬戸内の石の島から大阪へ」
大原国立狭山池博物館 1階特別展覧室

開催日：3月16日（土）～5月12日（日）
開催時間：10時～17時（入館は16時まで）

観覧料：無料

早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲、早稲の4品種の稲作体験ができます。

一般の観覧料は、1000円（小学生は500円）です。早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。

早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験、早稲奉念園展は、早稲、中稲、後稲の4品種の稲作体験ができます。



案内チラシ

二〇一九年に日本遺産に指定された備讃諸島の一つ小豆島、石の島として今注目を浴びている。二一年に小豆島石丁場調査委員会が組織され、島内の石丁場の調査が進められているが、今回「石をよこば」をテーマに大阪の府立狭山池博物館で企画展が開催される。これは土木構築物や建造物を造るに不可欠な素材である「石」を取り上げ、日本の土木技術を支えてきた瀬戸内の花崗岩と石切技術を再検証しようとするものである。大坂城石垣には小豆島の石が多数使用されてきた。「石の島、小豆島」の石が、どのように切り出され大阪へ運ばれたかを、様々な絵図・古文書や刻印・矢穴資料、映像などをもとで紹介する。

この展覧会は調査委員会が三年にわたって調査研究をすすめてきたその成果をもとに、共催として開催される。昨年度は「日本遺産の石の島、新たな発見と保存をめざして！」をテーマに小豆島石のシンポジウムを開催し、島内外の多くの人たちに広く取り組みを紹介した。今回の展覧会は石を受け入れた側からの視点で鑑賞し、「石の島」の魅力を感じてほしい。



旧土庄村庄屋笠井家墓地

を実施した。徳島文理大学生の協力を得て、位牌から史料に見られる当主の確認をする。その後、調査員により笠井家墓地の調査を実施する予定である。

六月には五人の調査員により、土庄町立中央図書館に所蔵されている古文書群から、土庄村関係文書を抽出し、石丁場・石材に関わる史料の検索を行った。村絵図・村明細帳などを検証したが、残念ながら土庄石丁場に関する記事は無く、わずかに豊島での石運上切出しを記述した記事を見るだけである。以前、徳島文理大学を中心とする小豆島町の古文書調査でも、石関係史料はほとんど検出されることはなく、島内では笠井家文書の重要性が再確認された。

今年度の調査は、前期の文献調査から始まった。まず、四月二三日に旧土庄村庄屋であった笠井家の石関係史料の確認と、先祖の位牌の調査

七月二十七日、調査員六人による瀬戸内海歴史民俗資料館の調査が実施された。事前に目録から抽出した絵図をメインにして、絵図上に石丁場の所在が示されていないかを目的に調べを進めた。まず、土庄村山林字限切絵図を調べたが、千軒・西瀬・東滝・小瀬奥という小字とともに蛇谷の小字の切絵図があった。小瀬と隣接しており、現在調査中の場所と一致することが証明できた。だが石丁場の所在場所は示されていないかった。

足守文庫の写である延宝五年〜七年の小豆島地図の星ヶ峰より岩谷等への中に、とちめんじとたいあじろが記載されている。これは絵図作成の下書きとみられるもので、畝筋と谷筋が記載され、

両所の場所が示されており、比定場所を明らかにすることができるとが重なる貴重な資料といえる。夏の調査の参考にな



瀬戸内海歴史民俗資料館絵図調査

る資料で、調査への期待が高まった。



サップによる海上移動はスムーズ

夏の調査は小豆島町の福田地区の石丁場に重点を置いて実施した。今年度第一回目の現地調査は、九月九日から一日にかけて、福田地区海岸線の綱網代ととちめんじの調査である。絵図に示された場所を確認しながら、ドローンとサップを活用しての調査であった。参加者は調査員・協力者・学生補助員併せて一四名で、そこにはマスクも参加した。

一日目は福田港から渡船で綱網代石丁場へ。海岸線をドローンで空撮し、指示された場所へサップで赴く。十字に刻まれた矢穴のある巨石神を重点的に調査するが、海中には期待するような石は見つからなかった。刻印巨石は山からの落石と考えられるので、後背山間部の調査の必要性が生じた。

二日目は文献に記載されているとちめんじの状況を確認する。海岸線や海中には残石は見ら



福田庵豊島石製石仏170C前半

陸上の石造物を調査している調査員は、福

れず、後背山にも遺構は残っていない。後背地は近代石丁場が拓かれて、現在も活動しているため、往時の丁場は破壊されていると考えられる。とちめんじから小島にかけての海岸線を調査、小さな矢穴石が少数見られた。また、小島周辺の海中に残石があるが、詳細は十分に確認できなかった。

午後から再度綱網代へ移動し、以前発見した藤堂氏の刻印がある石を確認して、拓本採取を行った。また、十字矢穴の巨石の拓本採取と測量を行い記録した。その後、綱網代より南方の踏査を行うが遺構を見ることは出来なかった。岩谷石丁場までは海際まで急峻な山が連なるため石丁場の開拓は困難であつたらう。



拓本うまく採れたかな

田地区の寺社・墓地の悉皆調査を実施して、その後岩谷から橋地区まで足を伸ばした。地区ごとに石材が異なり、豊島石や播磨庵山石など他地区産石材が見られる。

一方、他の調査員により、昨夏の調査で発見した小瀬海岸の突堤のような構造物の周囲に、残石（矢穴石）がないかの確認調査を行った。シュノーケルにより、海岸線と平行して泳ぎ、視認できる石を探したが、矢穴を確認できる石は見つけられなかった。海水の透明度が悪く、海況も不良のため、十分な調査はできなかった。

最終日は、次回調査予定場所の状況確認に赴くが、天候不良のため断念、その後大坂城残石記念公園資料館の見学と今後の調査について打ち合わせを行った。

第二回目調査は、十一月二十九日調査員五人で、小瀬地区の以前発見した巨石の奥の谷筋を踏査した。刻印石は無かったが矢穴が大きな石を数個発見した。石丁場の拡大が明らかにされつつある。



この石は大きさは？ 記録しておこう



急斜面に残る石

石造物調査員は笠井家墓地を調査し、墓石名を確認、今後位牌名と照合を行う予定。

三回目の調査は、一月二一日・二二日に五人の調査員が福田地区で実施した。

まずは国道より山側に入るが、近代遺構が残されていた。次いで綱網代海岸を目指して国道から谷筋を下る。急斜面にいくつかの矢穴石を発見、海岸の巨石はここから落下したことが明らかになるとともに、この山中に石丁場が拓かれていたと確認する。GPSによる位置確認と写真撮影を行い、今後の資料とする。

翌日は森ヶ滝牛ヶ谷橋奥にある砂防ダムの上下流を踏査。砂防ダム上流にはコッパや小さな矢穴のあいた石が散在、火



GPSでの位置確認と写真撮影



砂防ダム下流の矢穴石

粟庫跡が随所に
見られ、近代石
丁場としての遺
構が残る。ダム
下流では、大き
な矢穴の石を二
個見つけた。う
ち一つは水流の
影響で形が薄く
なっているが、

もう一つは明確な形を残す。
その後東谷石丁場近くの残石が集められた場
所へ行き、それぞれの石を測量記録した。
午後からは町指定石丁場(東谷丁場)の奥を踏
査、従来知られていた石の場所よりも山中深く
行くと矢穴がある石を数個発見、このことから
石丁場は広範囲に及ぶことが明らかになった。
三月二・一三日、調査報告書準備の一環と
して、石丁場
の測量を行っ
た。福田地区
では西谷石丁
場にある多数
の矢穴が並ん
だ巨石の三次
元レーザース
キャナー測量



巨石のレーザーキャナー測量

調査を実施した。測量と並行して、大山津見神
社の奥を踏査したが、矢穴のある石は確認でき
なかった。
今年度は調査の回数は少なかったが、当初の
目標はほぼクリアした。来年度は、残された課
題を克服して、報告書作成の準備にかかるよう
努めたい。

調査雑感

小豆島の石丁場の原点は、大坂城石垣築造の
石を供給する目的で拓かれたことに始まる。島
で採石され大坂へ運ばれたが、四〇〇年を経て、
両者の関係をテーマに、大坂の博物館で展覧会
が開催される。現在の小豆島と大坂を石で結ぶ
道が再び開かれたといえよう。展覧会は委員会
共催として、メンバーが積極的に取り組んだ。
島の石の文化を広く伝えたいとの思いがあり、
ここには調査の成果が生かされている。なお、
展覧会開催中に講演会・シンポジウムが開催さ
れるが、三人の調査員が参加する。

展覧会には旧土庄村庄屋笠井家に伝わった史
料が何点か展示されている。土庄村には肥後加
藤家の石丁場があり、笠井家に残された史料で
石丁場で使用された道具類の記録がある。

笠井家がいかに石丁場や加藤家と関わりを持
つたを示す伝承がある。西光寺裏に二基の祠が
あるが、石を運び出す際に亡くなった人を祀る



小豆島に置く道具覚(笠井家文書)

という。
祠の管理
は笠井家
が行い、
祭礼には
諸品を献
納するよ
うに關わ

りを持っていた。また、千軒石丁場付近に所在
する堀神社の場所は旧笠井家の土地といい、神
社は堀を埋めた際に白蛇の霊を弔うために創建
と伝える。祭礼にも笠井家が関わっていた。昔
は水路が神社付近まで続き船繋ぎと呼ばれる石
杭があり、船を係留出来たという。ここから石
を搬出したと推測できる。加藤家の家紋は蛇目
紋であり、白蛇は加藤家を示したものと考えれ
ば、改易になった加藤家の霊を祀るため神社を
創建したとも想定できる。このように加藤家と
笠井家の深い結び付きを想像することができる。

【編集後記】

膝を痛めながらも石を求めの山歩き。若
者たちは休んでいるようと気遣ってくれる
が、石を発見した時にその場にいなければ
がっかりする。だから山へ入るのだ。多くの
人に支えられながら早三年が経た。調査は
後一年しかない。全精力を注いで頑張らな
くはと思う昨今だが・・・
(S記)